

ながもり通信

～nagamori newspaper～

発行日：2025年10月1日 No.0051 HP：https://nagamori.jimdofree.com/

今月のスケジュール

10月6日(月)～18日(土)	韓国風海苔巻きキンパ 販売期間
10月3日(金)・21日(火)	レンジDEランチ スタミナトンテキ風チキン
10月23日(木)	日替わり弁当 BIGサブフライ自家製タルタルソース

知っトク

ハロウィン



今月の注目スポット

※日時など詳細はお出かけ前にご確認ください

食肉祭in各務原 ★各務原市民公園
期間：2025年10月25日(土)・10月26日(日)

第3回の開催となります。まだ1回も行けていないのですが、今年こそは行きたいと願っております^^ 食肉祭とは、畜産肉料理はもちろん、あらゆる肉をテーマとして全国を対象に出店を募集・選考し、各地の美食が集う西日本最大級の野外グルメイベントです。総メニュー数は200アイテム以上、2日間いっても食べることができないみたいです。肉のイベントなのですが、地元岐阜出身のMEGARYUのMEGAHORNさんの生ライブやファイヤーパフォーマンスなどのステージ企画もあります。10：00から21：00まで会場への入場料は無料となっています。各務原市民公園付近には900台ほどの駐車場(有料)がありますが、すぐ満車になりそうですね。名鉄 市民公園前駅から徒歩1分、JR 那加駅から徒歩15分とアクセスもしやすいので電車で行くのもよさそうです

STAFF募集中

※詳細は、ご希望の勤務工場に
お問合せください。
お待ちしております！



都道府県クイズ

都道府県クイズ

次に該当する都道府県名をあててください。

- ① メロンの生産が日本イチです。
- ② 卵の生産量が日本イチです。
- ③ ビール生産量が日本イチです。

答えは 次号で

前号の答えは 青森県

むかしと言っただけは何なんです、ハロウィンってものは聞いたことも見たこともなかったですね。いつの頃からか10月になるとハロウィン三昧になった気がします。そもそもハロウィンとは、もともと10月31日から11月1日まで行われる古代ケルト(古代ギリシア人が、西方ヨーロッパの異民族をケルトイと読んだことに由来する。ケルト語を話す文化集団をさし、人種を意味するものではない)の「サウィン祭」を起源とする祭りです。「サウィン祭」とは、夏の終わりと冬の始まりを祝う重要な祭りで、11月の新しい年になる大晦日(10月31日)の夜、先祖の霊が訪ねてくると信じられており、お菓子など施してもてなしました。ハロウィンでは、かぼちゃのランタンが登場しますが、もともとは異なる起源をもつ風習で「悪霊を遠ざける魔除け」を意味しています。死者の魂とともにやってくる悪霊を遠ざけるために、ランタンを作り火を灯しました。もとの材料は、かぼちゃではなく、収穫されたカブやじゃがいもやビートでした。カブをくりぬいて怖い顔を描き、中に火を灯して家の戸口に置いたとされています。かぼちゃへと変化したのは、アイルランド移民がハロウィンの風習をアメリカに持ち込んだ際、豊富に収穫ができたかぼちゃが代用品として使われるようになった。ランタンの由来として「ジャック」という男の伝説が結びつきました。ずる賢い乱暴者のジャックという男が、酒場で出会った地獄の悪魔に魂を取られそうになります。しかしずる賢いジャックは上手く悪魔を騙し取引をします。「死んでも地獄に落とさない」という約束です。そして時がすぎ、ジャックは天命を全うしますが、生前の行いから天国へ行くことはできず、悪魔との約束のせいで地獄に行くこともできず、今も天国と地獄の狭間でカブの中に火と灯し彷徨い続けているといわれています。「ジャック・オー・ランタン」(ジャックのちょうちん)は、さまよえる魂や悪霊を象徴し、同時に魔除けとして用いられるようになりました。子どもたちが仮装してお菓子をねだるというスタイルはアメリカから始まり、世界各国でマネされるようになりました。

古代の祭りの風習を色濃く残したアイルランドの都市ミースでは「スピリッツ・オブ・ミース・ハロウィン・フェスティバル」で、お化け屋敷や怪物の舞踏会を開催する大きなイベントがあります。そして家では、カブをくりぬいて不気味な笑顔を浮かべた提灯をつくり、火のついたろうそくをともし、宴会が始まりコルカノンと呼ばれるジャガイモ料理が出され、最後にバームブラックが出る。ルームブラックの中には、運勢を占うさまざまなものが入っています。指輪(結婚)、硬貨(金運があがる)、布切れ(貧困)、ボタン(独身男性が結婚できない)、えんどう豆又は指ぬき(独身女性が結婚できない)、木の破片(結婚生活に悪いことが起きる)なんだから、悪いことばかりのようですが、硬貨、布切れ、指輪は必ず入れるものとされ、大人数になるとボタンやえんどう豆が加わるそうです。

イタリアのハロウィンは、アメリカ文化の影響を受け、かぼちゃを飾ったり子どもたちが仮装したりします。しかしイタリアにはもう一つ、ハロウィンの翌日・翌々に「諸聖人の祝日」「死者の日」という伝統的なお祭りがあります。 右上につづく

「諸聖人の祝日」はミサにいき、「死者の日」にはお花やお供えを持って先祖のお墓をお参りします。

アメリカでは、お化け屋敷やハロウィン関連のイベントが開催され、家の周りに飾り付けをし、多くの子どもがコスチュームを着て、トリック・オア・トリート(お菓子をくれないといたずらするぞ!という意味)に出かけます。アメリカのハロウィンは子どもメインのお祭りです。地域ごとに何月何日何時からハロウィンをしますとお達しがあり、その日に向けて各家庭はコスチュームを用意したり、キャンディを用意したりします。ちなみに当日参加したくないお家は外灯を消しておくことで子どもたちはその家には行かないというルールもあります。どれだけ多くのキャンディをもらうかが重要なようです。

メキシコでは、死者の日というお盆に近い伝統的なお祭りをします。11月1日は子どもの魂が、2日は大人の魂が現世に戻ってくると信じられ、家族が祭壇にマリーゴールドで飾り付けをし、故人の好物などを供えます。街はカラフルなガイコツ(スカル)の装飾で彩られ、故人を悲しむのではなく明るく楽しく思い出して祝うのが特徴で、墓地で音楽を演奏したり、祭壇のそばで食事したりと賑やかな雰囲気になります。

そして日本のハロウィンは、1970年代に雑貨店「キデイランド原宿店」がハロウィングッズの販売を始めたことが起源とされ、1997年の東京ディズニーランドでのハロウィンイベント開催をきっかけに、仮装パレードが人気となり広まりました。2000年代以降に菓子メーカーやバラエティショップがハロウィン商戦に本格参入し、SNSの普及も相まって、漫画・アニメのコスプレを楽しむ若者文化として独自の進化を遂げました。コスプレ文化に馴染みがあった日本では親和性も高く「悪霊から身を隠すための仮装」の範囲を大きく超え、独自の方向で進化していきました。盛り上がりを見せる一方で、パレードの騒動やゴミの散乱、酔っ払いによるトラブルなどが多発。こうした一部の過熱したイベントは抑制される傾向にあります。もともとの意味をもつ「死者の魂を慰める」といった起源の意味合いは薄く、日本独自に発展していったハロウィンも「世界で最もクレイジーなイベント」と注目され、一度は体験したいイベントとして人気があります。世界から注目されるイベントなので、より一層マナーを守って楽しめたらいいなと思います。路上でなくても、多様なハロウィンイベントが日本各地で開催されていますので、自分に合ったイベントを探すのもいいかもしれません。やったことがない人も仮装してみたいか(^^)/